

絵本の読み聞かせて世代間交流



“りぶりんと”のエリアをつなぐ・・・

りぶりんとネットワーク ニュースレター



寄稿 群読は一石数鳥の効能

りぶりんと・長浜代表

ジーバーほこほこ長浜小グループ

新木信行

私たちの長小グループでは、3年前から群読に取り組んでいます。

読書の方法には大きく黙読と音読に分けられ、声を出さずに静かに読む黙読に対して、音読は声を出して読みます。音読は、脳が活性化され内容の理解もしやすくなると言われています。一般的には自身の理解の為に感情を込めずにすらすら読む音読に対し、聞き手を意識し、相手に伝達するために読むことを朗読と呼んでいます。この朗読を更に複数の読み手によって、文章や文体に応じて大勢で読んだり、少人数や一人で読むこと、更には輪唱のように読むことで、一人で朗読するよりも立体的な表現になり面白味が増す、これを群読と呼んでいます。

取り組みのきっかけは、仲間の一人が高月町（長浜市から10キロ余り北で“観音の里”として有名な町）の図書館司書の方からお誘いを受けたことでした。高月町では、町内の各学校で群読教育に取り組んでおられ、毎年発表会があり、町内の四つの小学校の児童に混じって、大人も群読発表をして居られるとのこと。早速高月町の図書館に出向き、館長さんや、司書さんに教えを請いました。

群読では、脚本にこだわることなく、自分たちで自由に編集してもよいということも分かりました。発表会の作品選びでは、沢山の脚本をみんなで読み合わせをしながら、自分たちに相応しい作品として、西条八十作「信濃の一茶」を選び、その脚本の中に歌を挿入する等、編集しながらそれぞれの朗読するパートの役割分担を決めました。発表会では、「子ども達に負けてはいられない」というプレッシャーもありましたが、「良かった、素晴らしい出来栄え。」とお褒めをいただきました。この歳になっても褒められるのはうれしく、自信にもつながり、以後続けようと今日に至っています。

この群読に取り組んだことによって私たちは多くのものを得ることが出来ました。一緒に朗読する事で、練習時には、間のとりかた、読むテンポ、声の出し方等について、お互いに感じた事を自由に述べあい、声あわせが、力あわせ、心あわせへと大きく発展、絆も更に深まりました。それぞれの絵本の読み方にも大いに役立っています。

その後に取り組んだ作品は、谷川俊太郎作「パナンペのはなし」、郡山半次郎作「むかしむかしのおかしな話」、百田宗治作「にれの町」等があり、今は、この秋の発表会に向け、赤松まさえ作「らかんさん」に取り組んでいます。

目次

寄稿：新木信行	1 面
講師コーナー：熊谷裕紀子	2 面
りぷりんと・中央区	3 面
りぷりんと・長浜	3 面
りぷりんと・すぎなみ	4 面
りぷりんと・かわさき	4 面

りぷりインフォ（おしらせ）

- * 本年度、りぷりんとネットワークが、「続・101 選」の編纂事業で、財団法人長寿社会開発センターから助成を受けることになりました。各エリアからの代表にご参集いただき、第 1 回編集委員会が 6 月 15 日に行われました。
- * 東京都老人総合研究所が、「東京都健康長寿医療センター研究所」と改称しました。連絡先は変わらず 03-3964-3241（内 3016）です。



講師コーナー りぷりんと・かわさきの勉強会 熊谷裕紀子（りぷりんと・かわさき）

りぷりんと・かわさきでは、各期毎に月一回勉強会を続けています。新人研修後、現場に出て実践で読み聞かせをすることはできますが、自分のための勉強は常に大切です。柔軟体操・筋力作り・腹式呼吸・発声練習と読み聞かせに必要な基礎は学んだものの、それを持続させることはとても大変です。筋力は鍛えなければどんどん衰えていきます。毎日の訓練こそ常に現役の証。

それから、新しい絵本探しにアンテナを張り、いつでも「旬」の絵本にトライできるよう自らを作り上げていきます。

いま、三期生は体力づくりの真最中！20 分以上、絵本を正しい姿勢でテンションを下げずにしっかりと読み上げていきます。この訓練をクリアすると、気力、体力に余裕ができ、作品を自己演出できる力がつきます。第一声から安定感のある声を出すことができ、高低音や太さ、細さも自在に楽しみながら使うことができるようになります。今、勉強中の絵本の完成度が一味も二味も変わります。もっと声に敏感になることが大切です。緊張感のある声を獲得するために、腹筋を鍛えましょう。

りぷりんと・かわさき 熊谷先生から絵本を 2冊ご推薦いただきました

「きりんはダンスをおどれない」

作：ジャイルズ・アンドレイ 絵：ガイ・パーカー＝リース

出版社：PHP 研究所 出版年月：2009.2.3

対象年齢：幼児・小学校低学年

あらすじ：きりんのジェラルドはやせっぽちで、ちょっぴり足も不自由。だから走るとすぐにすってんころりん。でも、ジェラルドは年に一度の「ジャングルダンスまつり」に出たくてたまりません。イボイノシシのワルツ、サイのロックンロール、ライオンのタンゴ、チンパンジーのチャチャチャ、みんなのダンスにつられてジェラルドもダンス広場へ。するとライオンがおおわらい。ジェラルドはきんちょうのあまり・・・

「COCO は、とびきりかわったコ」

作：エリザベス・マシューズ 訳：佐伯誠

対象年齢：中学生

あらすじ：フランスが豊かで偉大でファッションの中心だった頃、貧しい家にやせっぽちの女の子が生まれました。名前は COCO（ココ）。ココはいつだってかわったコでした。

ご存知、ココ・シャネルの物語

COCO の独創的な生き方が絵本で味わえます。

りぷりんと・中央区トピックス

私のボランティア（りぷりんと・中央区副会長：小林 典子）

「ボランティア・・自ら進んで社会事業などに無償で参加する人・または活動」とのこと。私と「りぷりんと」の読み聞かせは打算で始まった。自分の健康状態を只でチェックしてもらえる・・こんないいことはない。嫌になったらやめればいいから。今つくづくおもう「只ほど高いものはない」と。

しかしよいこともたくさんできた。それは何と言ってもため口が開けるほどの親しくできる仲間ができたこと。街を歩いているとき「お母さんとこどもからの声掛け」がある。これは大変！少しはお洒落をしなくてはって、なりますもの。孫のいない私はいくつになっても「おばちゃん」だったはずなのに「私おばちゃん知ってるよ」といわれて「あらそう！うれしいわ」と答えてしまう。この子たちに下手な読みはできない。本を読んでもらって本が好きになった、と、いわれたいものと顔を覚えられた分改めて感じるが多くなってきた。

さて、ここ2年ほど前から「デイサービス」へ個人で「新内弾き語り」をはじめた。始めて3カ月ほどは「こんなはずでは・・」しかし個人でアタックしていったのでやめるわけにはいかない。「いい声だね、きれいだね」といいながらぐうぐう寝ている。終わってから「上手だね」といいながら「今度はいつ？待っているからね」と言われては、やめられません。

こういったことなどから学校・幼稚園・デイサービスと施設・年代は変わっても受ける側の心は同じということを最近特に感じる。子どもたちから「今度いつよんでくれるの？」って常に言われるように努力しなくては、ね。



りぷりんと・中央区 5月16日みんなで楽しむおはなし会
山田源次さん 小林典子さん



りぷりんと・長浜 長浜小学校朝の会での読み聞かせ
西脇義雄さん

りぷりんと・長浜トピックス

「ジーバーぽこぽこ」の歌が生まれて（りぷりんと・長浜 西脇義雄）

早いもので読み聞かせボランティアを始めて5年になります。当初は手探りで、とりわけ脳出血の障害が残る私にとっては不安と恐怖の連続でしたが、子どもたちの笑顔に励まされ、研鑽と努力を重ねて今日を迎えることが出来ました。昨年の暮れには、読み聞かせを通じ実感した「ジーバーぽこぽこ」と「生きる喜び」の二つの詩が生まれました。幸いにも、東京在住のヘブンアーティストの作曲者の渋谷みのる氏に巡り合い、歌として世に出ることができました。自分の心境を素直に表現できたことに無上の喜びを感じます。この二つの歌が読み聞かせに携わる皆さんや障害者の人たちの共感と励みとなって歌唱していただければ幸いです。一部を紹介します。

♪「ジーバーぽこぽこ」の歌♪

1. おはよう おはよう 子どもの元気に あと押しされて
集う校庭に 笑顔があふれて 今日本読み 紙芝居
シルバーの喜び ジーバーぽこぽこ
2. こんにちは こんにちは ボケないための 頭の体操
シニアパワーで 花咲かそう 今日図書館 本選び
シルバーの幸せ ジーバーぽこぽこ

りぷりんと・すぎなみトピックス

子どもとともに：一年を振り返って（りぷりんと・すぎなみ 門馬 迪子）

紫陽花の色が一番きれいな季節になりました。

私たち二期生16人は、昨年4月に研修を終え、保育園、児童館、図書館の「読み聞かせ」の活動へと巣立っていきました。

はじめの頃は、子どもとの距離感がありましたが、回を重ねるごとにこの距離は大分なくなりました。子どもの柔軟性に驚きました。

4月に阿佐ヶ谷図書館で「子ども読書の日」記念行事として、「お話し会フェスタ」が催され、他所の三グループと共に参加しました。私たちのグループは、大型絵本とエプロンシアター「3びきのやぎのがらがらどん」をやりました。一番多く子どもが集まり、皆さんに大変喜ばれ、とてもやりがいがありました。その後、保護者の方、図書館スタッフとの交流会に参加して、意見交換をしました。話題は人に対する思いやりや想像力を絵本を通して伝えたいということでした。読み聞かせ活動も2年目に入りました。今年はどんな出会いが待っているかとても楽しみです。



りぷりんと・すぎなみ

2月17日荻窪東保育園での交流会の様子



りぷりんと・かわさき

6月3日定例会後のミーティング

りぷりんと・かわさきトピックス

はじめまして、6期生です（りぷりんと・かわさき 土居治子）

この春たまごの赤ちゃんでデビューした6期生です。男性2名・女性5名、バリトンあり、ソプラノあり、やさしい声、メリハリの利いた声ありと、頼もしいメンバー7名が活動中です。

私と「りぷりんと」との出会い、それは昨年3月、先輩でもある友人より貰った一枚の青いプログラム「みんなで楽しむお話ワールド」でした。絵本に縁のなかった私にはエッ！これが絵本？？こんな絵本があったんだと驚き、黒いTシャツに身を包みキビキビとした動きと、楽しそうな先輩達に感動し、6期生の講座に参加しました。

難しい話も分かりやすく説明していただいた藤原先生。優しく、時には厳しい熊谷先生のご指導を受け、発声・滑舌・姿勢等々を学びました。受講中の一番の楽しみ、それは、毎回の熊谷先生の読み聞かせでした。この4月より「りぷりんと」の仲間入りが出来、先輩達の手助けを受け、小学校・保育園と読み聞かせに挑戦中です。

選書・読み方等ヨチヨチ歩きを始めたばかりの6期生です。

藤原先生・熊谷先生・先輩の皆様、これからもご指導をよろしくお願いいたします。